

3 友達の嫌がることをして気を引くC男(3年生)

学習・行動上の特徴

学習の遅れが目立ち、計算することや、読んで考えたり、文字を写したり、作文を書くことなどが苦手である。気が散ることも多く、一斉学習では常に配慮が必要で、個別指導を要する。

学習中に立ち歩き、教室から出て行くことがある。ルールが守れず友達の嫌がること(たたく・ける・ぶつかる・噛む・唾をかけるなど)をして、気を引こうとする。

また、当番活動に参加せず、注意されると反抗し、謝ることができないこともある。

学級での集団遊びは参加して楽しんでいるが、ルールは十分守れていない。

低学年の時は、母親が学校に来ると母親から離れられなかった。

特徴の考察

視覚認知能力の問題が、学習活動全般へ大きな影響を与えていると考えられる。

本児の場合、感情をコントロールする力の弱さだけでなく、「嫌がること」をすることによって自分の存在を訴え、承認を求めている面があると考えられる。

心理的に不安定な様子、とりわけ母親への愛情を求める母子分離不安な状態があったので、母子関係の安定には、今後も留意する必要がある。

援助・指導の方針

本児は、重複言語性LDに近い様子を示している。言語能力の弱さと併せて、注意集中困難や社会性の未熟さがあると考えられる。行動目標を絞って明確にさせ、見通しのある活動をさせ、自信をもたせるよう援助したい。

生育歴からは、母子関係の不十分さが明らかになっている。援助を通して情緒的な安定を図るとともに、母親との教育相談を行い、家庭での本児の安定も図っていききたい。

学習面の遅れについては、本児は視覚的な刺激に対して比較的よく反応・認識するので、具体的な視覚的援助を活用して理解と定着を図りたい。

ロールプレイなどによって、友達とのやりとりや集団活動のルール、社会的な場面での行動の仕方を学習し、対人関係を円滑にしていきたい。

留意点

本児については、注意を向けさせる工夫をするとともに、集中できる時間を把握して課題を組み合わせ、集中できる時間を次第に長くするようにしていきたい。

本児にとって楽しい内容のものを選ばせて意欲を引き出し、自己コントロールの力をつけていきたい。

学級担任との連携や学校体制での援助を配慮したい。

援助・指導例

(指導担当) 通級指導教室担当

(指導形態) 個別指導 週1回

ア ねらい

情緒の安定を図り、自己統制力を育てる。
言語能力を高め、対人関係を円滑にする。
学習に向かう力をつける。

イ 内容

コミュニケーション

【ロールプレイ】 本児の興味・関心のあるものから始め、係り活動や集団活動での場面設定で、友達の嫌がる気持ちを感じとらせたり、集団でのルールを理解させていく。

【簡単なゲーム】 カルタ・トランプ・連想ゲーム・しりとり・すごろくなどで、ルールを理解させる。

言語

【ことばカード・絵カード】 ことばを概念として習得する力や理解力を育てるため、できるだけ具体的で視覚的な援助を与えて理解と定着を図る。また漢字には全て振り仮名をつけ、本児が読みやすくする。

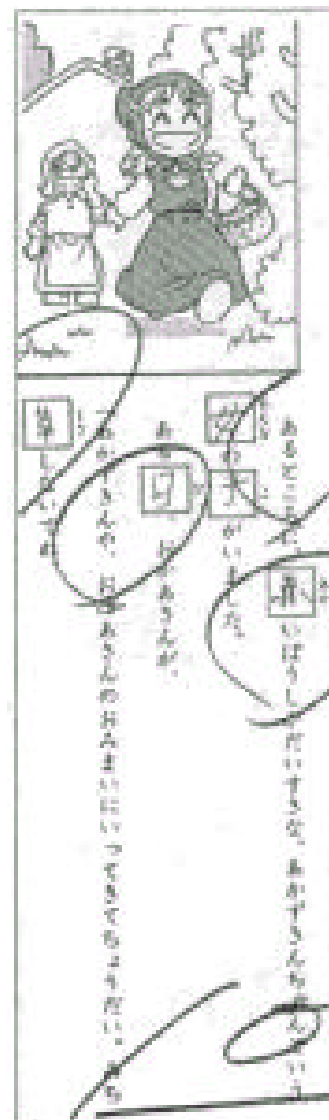
学習

【計算プリント】 算数の計算力を高めるため、習得段階ごとのプリントを使う。細かなステップで成就感を持たせ、さらに褒めることで自信をつけさせる。また数字だけでなく、必ず図や具体物で理解させるように注意する。

【漢字プリント】 興味を持ち、楽しく練習できる教材を選ぶ配慮をする。〔上図〕

注意集中

【聴写・聴唱・まちがいさがし・描画（自分の手や顔）など】



指導後の変化及び考察

ア 変化

以前に比べると、落ち着いて学習に向かえるようになってきている。保護者との相談を通じ、家庭でも本児に分かるように話したり、母親が家庭学習をみたりするようになり、好影響を与えていると考えられる。

イ 課題

これまでの積み残しもあって基礎学力が弱く、また社会性についても徐々に改善はされてきてはいるが、まだ課題は多い。社会性などの二次的な困難の増大を防ぐため、学習面での遅れを少しでも改善することを検討し、計画している。

